

民衆を黙らせながら戦争の準備をするアメリカ

【訳者注】コメントを見ても、このピルジャー論文は、激しいが、嘘は全くないので支持者が多い。スミソニアン博物館での館員の説明を聞けば（2頁）、アメリカの大衆や子供が、どういう教育を受けているかがわかる。オバマ大統領が、広島で謝罪してはならなかった理由がわかる。アメリカ国民に対するウソと隠ぺい教育は、その理由と目的がよくわかるが、この教育を日本国民が共有しなければならない理由は全くない。ドナルド・トランプと Stephen Cohen が問う当たり前の問い（5頁）を、なぜ日本のメディアと日本人一般が問わないのだろうか？

John Pilger

May 27, 2016, Information Clearing House

ジョン・ピルジャーは、リベラルな論陣を打ち砕き、ヒラリー・クリントン、ドナルド・トランプ、そして、そう、バーニー・サンダーズの、純粋に反帝国主義的な分析をすることが必要だと指摘する。——編集者



選挙の年にアメリカへ帰ってきて、私はこの沈黙に衝撃を受けた。私は1968年から始めて、4回の大統領選挙戦取材した。私は、ロバート・ケネディが撃たれたとき彼と一緒にいて、彼を殺そうとしている暗殺者を見た。それはアメリカ流の洗礼で、仕組まれた民主党集会での、シカゴ警察の唾棄すべき暴力であった。大きな反革命が始まっていた。

その年に暗殺された最初の人、マーチン・ルーサー・キングは、アフリカ系アメリカ人の苦しみと、ベトナム人民の苦しみとを、あえてつなげて論じた。Janis Joplinが「自由とは、何も失うものがないという別の言葉にすぎない」と歌ったとき、彼女はおそらく、無意識のうちに、遠く離れた場所での、何百万というアメリカによる犠牲者のことを言っていた。

「我々は5万8000の若い兵士をベトナムで失いました。彼らはあなた方の自由を守って死んでいったのです。それを忘れてはいけません」と、国立公園勤務のガイドが、先週、私が

ワシントンのリンカン記念堂で写真を撮っていたとき、言っていた。彼は、明るいオレンジの T シャツを着た、学校引率のティーンエイジャーたちに向かって話していたのだった。彼は、ベトナムの真理を、反論できないウソに作り替えたものを、機械的に暗唱した。

アメリカの侵略によって、殺され、身体不能者にされ、毒を与えられ、すべてを奪われた何百万というベトナム人は、若者の心に中に、歴史上の居場所をもつことはない——自ら命を絶った推定 6 万の老兵は言うに及ばず。私の友人で、ベトナムで対麻痺（両足の麻痺）になったある海兵隊員は、しばしば尋ねられた、「あなたはどちらの側で戦ったのですか？」と。

数年前、私は、ワシントンの古いスミソニアン博物館で、「自由の代価」と銘打った大衆向きの展覧会に出席していた。ほとんどは子供だったが、列を作った普通の人々は、歴史修正主義のおとぎの館を通り抜けながら、いろいろなウソ物語を与えられていた——ヒロシマとナガサキの原爆は“百万の人命”を救ったのです——イラクは“前例のなかった正確な空爆によって、解放された”のです——。そのテーマは間違いなく英雄主義的で、アメリカ人だけが自由の代価を支払っている、というものだった。

2016 年大統領選で際立つのは、ドナルド・トランプとバーニー・サンダーズの台頭だけでなく、殺人者の自己神格化について、沈黙が破られないことである。国連構成国の 3 分の 1 が、ワシントンの軍靴、政府転覆、民主主義の破壊、輸入禁止やボイコットの強制を経験している。責任ある大統領のほとんどはリベラルだった——トルーマン、ケネディ、ジョンソン、カーター、クリントン、オバマ。

この裏切り行為の唾然とする記録は、民衆の心の中であまりにも変形されていて、ハロルド・ピンターが書いたように、「それは決して起こらなかった。…何も決して起こらなかった。それが起こっている最中でも、それは起こらなかった。それは問題でなかった。それには興味がなかった。」ピンターは、嘲笑的な称賛を浴びせてこう表現している——「それは完全に世界的な、臨床的な、権力の見せつけであるにもかかわらず、普遍的善のための武力という仮面をかぶっている。それは見事であり、うまい冗談であり、高度に成功した催眠術的行為である。」

例えばオバマ。彼が任を退く準備をするようになって、再びお世辞が始まった。彼は“クール”だ。より暴力的な大統領の一人だったオバマは、ペンタゴンの戦争製造機械に、彼の信用を失った前任者と同じ活動を許した。彼はどんな大統領よりも、多くの警告者、真理を語る者たちを起訴した。彼は、**Chelsea Manning** が裁かれる前に、彼女に有罪の宣告をした。今日、オバマは、テロリズムとドローンによる殺人の、前例のない世界的なキャンペーンを行っている。

2009年にオバマは、「世界から核兵器をなくする」努力をすると約束し、ノーベル賞を授与された。いかなる米大統領も、オバマほど大量の核弾頭を作った者はいない。彼はアメリカの最終戦争の兵器を“現代化”している。そこには新しい“ミニ”核兵器も含まれ、そのサイズと“賢い”技術は、ある軍指導者によると、その使用を「もはや考えられなくはない」ものになっている。

ベストセラー *Flags of Our Fathers* の著者で、硫黄島に旗を立てた米海兵隊員の一人の息子であるジェイムズ・ブラッドレーは、こう言っている——「我々が演じられるのを見ている偉大な神話の一つは、核兵器をなくそうと試みている、ある種の平和な男としての、オバマの神話である。彼は、存在する最大の核戦士である。彼は、ますます多くの核兵器に何兆ドルをもかける破滅的な路程に、我々を乗せてしまった。そのために人々は、ある幻想の中に生きようになり、彼が曖昧な記者会見や演説を行い、いい感じの写真入りの記事を書くので、何かそれが現実の政策であるかのように感じている。が、それは幻想である。」

オバマの監視下で第 2 の冷戦の宣伝が進行中である。ロシア大統領はパントマイムの悪党だ——メディア戦士たちはまた、中国人が、不気味な弁髪のある昔の漫画の絵に戻ったかのように宣伝している。

ヒラリー・クリントンも、バーニー・サンダースも、そういう現実には全く触れていない——アメリカと我々すべてにとって、どんなリスクも危険もないかのように。彼らにとっては、第二次大戦以来、ロシア国境で起こっている最大の軍事力の結集も、現実ではない。5月11日に、ルーマニアのテレビが、NATOの“ミサイル防衛”基地を、ライブで見せた——第一発目のアメリカのミサイルは、世界第2の核大国であるロシアの心臓部を狙っている。

アジアでは、ペンタゴンは、船や飛行機や特殊部隊を、フィリピンに送って中国を脅迫している。アメリカはすでに、中国を、オーストラリアからアジアを通してアフガニスタンに至る、円弧をなす、数百の軍事基地で包囲している。オバマはこれを“中心軸”(pivot)と呼んでいる。

直接的な結果として、中国は、その核兵器政策を、“最初に使用しない”から高度警戒に引き上げ、核兵器を積んだ潜水艦を出航させたとされる。エスカレーターは加速している。

2010年に国務長官として、南シナ海の岩や岩礁に対する領有権争いを、国際問題に格上げしたのは、ヒラリー・クリントンだった。CNNとBBCのヒステリーがそれに続いた。中国は、紛争中の島々に滑走路を建設中だった。2015年のマンモス戦争ゲーム“魔除けサーベ

ル作戦” (Operation Talisman Sabre) において、アメリカは、中国のほとんどの油と商船が通るマラッカ海峡の“首絞め”を行った。これはニュースにならなかった。

クリントンは、アメリカは、これらのアジア海域に“国家的利害”をもっていると宣言した。フィリピンとベトナムは、彼らの主張と中国への敵意を追求するように励まされ、賄賂を渡された。アメリカでは人々は、どんな中国の防衛態勢も、攻撃態勢と見るように細工されていて、急速なエスカレーションの土台が作られている。同じような挑発とプロパガンダ戦略が、ロシアに対しても取られている。

“女性の候補者”クリントンは、クーデタの血の跡を残している——ホンジュラスで、リビア（プラス、リビア大統領殺し）で、ウクライナで。後者は今、CIA のテーマ・パークで、ナチスがうようよしており、ロシアとの挑発戦争の前線になっている。ヒトラーのナチスがソ連を侵略して、2,700 万の人命が失われたのは、ウクライナ——意味は“ボーダーランド”——を通じてであった。この歴史的な大悲劇は、ロシアでは今でも一つの実在である。クリントンの大統領選キャンペーンには、世界の 10 の最大の武器製造会社の、一社を除くすべてから、カネが出ている。他のどの候補も足元にも及ばない。

アメリカの多くの若者のホープであるサンダーズは、アメリカの外の世界の所有者的見方において、クリントンとあまり変わらない。彼は、ビル・クリントンの不法なセルビア爆撃を支持した。彼は、オバマのドローンによるテロリズム、ロシアの挑発、それに特殊部隊（暗殺隊）のイラクへの帰還を支持している。彼は中国への脅迫の太鼓と、核戦争の加速するリスクについて、何も言うことをもっていない。彼は、エドワード・スノーデンを裁判にかけることに賛成しており、ウゴ・チャベス——彼のように社会民主主義者——を“完全な共産党独裁者”と呼んでいる。彼は、もしクリントンが指名されたら、彼女を支持すると言っている。

トランプかクリントンかという選挙は、選択ではない、選択の古い幻影であり、同じコインの両面である。少数派のスケープゴートになり、「アメリカをもう一度偉大にする」約束をした点で、トランプは極右の国内ポピュリストである。しかしクリントンの危険の方が、世界にとっては遥かに致命的であろう。

「ドナルド・トランプだけが、アメリカの対外政策にとって、意味のある、決定的に重要なことを言っている」と、プリンストンとニューヨーク大学の、ロシア史の名誉教授 **Stephen Cohen** は書いた。彼は、アメリカで戦争の危険について発言する、少数のロシア専門家の一人だ。

ラジオ放送で、コーヘンは、トランプだけが取り上げた決定的な諸問題に言及した。その例として——なぜアメリカは「地球上のあらゆる場所」にいるのか？ NATO の真の使命は何なのか？ なぜアメリカは、イラク、シリア、リビア、ウクライナなどで、常に政権交代を狙っているのか？ なぜワシントンは、ロシアとウラジミール・プーチンを敵として扱うのか？

リベラルのメディアでの、トランプに対するヒステリーは、“自由で開かれた討論”や“機能する民主主義”が幻影であることを示している。彼の難民やムスリムについての見解は奇怪である。しかし、アメリカから弱者を排斥する第一人者は、トランプでなくオバマである。オバマの有色人種への裏切りは、彼の残した遺産であり、ほとんどが黒人である囚人の総人口は、今ではスターリンの強制収容所を凌いでいる。

今回の大統領選キャンペーンは、ポピュリズムでなく、アメリカの自由主義、すなわち自分が現代的で、したがって優れており、ただ一つの真の方法だとするイデオロギーに関するものかもしれない。その右翼にいる者たちは、19世紀のキリスト教帝国主義者——改宗させるか、吸収するか、それとも征服するかという、神に与えられた義務をもつ者——に似ている。

イギリスでは、これは（トニー）ブレア主義である。キリスト教戦犯トニー・ブレアは、耳を塞ぐことでうまく逃げた。彼は“神秘的”と呼ばれた。アメリカから輸入されたアイデンティティ政治という逸脱したものが、彼の懐では安住の地を得た。

歴史の終わりが宣言され、階級が廃止され、ジェンダーはフェミニズムとして奨励された。多くの女性が“新労働党”議員となった。彼らは議会の第一日目に、ほとんどが女性であるシングル・ペアレントの給付金を、教えられた通りに、投票によってカットした。大多数が、70万人のイラクの寡婦を生み出した侵略に、賛成投票をした。

アメリカでこれに相当するのは、NYタイムズ、ワシントン・ポスト、それに政治討論を支配するネットワーク TV に登場する、政治的に正しい戦争屋たちである。私は、CNN で、トランプの裏切り行為について怒り狂う討論を見た。あのような男がホワイトハウスに入る資格がないのは明らかだ、と彼らは言っていた。どんな問題も論じられなかった。収入が1970年代のレベルに崩落した80%のアメリカ人について、何の議論もなかった。戦争に向かいつつあることについても同様。そこから得られる知恵は、“鼻をつまんで”クリントンに投票すること、トランプだけは絶対駄目ということのようだ。そうすれば、この怪物を引き止めておき、全員にさるぐつわを噛ませて、もう一度戦争ができる・・・